

あいちデジタルヘルスコンソーシアム

事業実施結果概要

Hubbit 株式会社

- 今回の事業で検証する事項
 - ①ケアの充実が図れるか
 - ②業務効率化が図れるか
 - ③PHR データの取得・連携ができるか
 - ④専門職のすすめで導入促進できるか

- 対象者概要
 - 合計人数：14 名
 - 豊田会（病院）に入院する患者：2 名
 - 春日井市等の在宅要介護者：12 名
 - 募集方法
 - 入院時の医療関係者からの勧め：2 名
 - ケアマネジャーからの勧め
 - 居宅介護支援事業所：10 名
 - 地域包括支援センター：2 名

- 仮説検証方法
 - ①②④：アンケート
 - ③：システムログ

- 結果
 - 学びと気づき
 - 1.ケアの充実が図れるか
 - 利用者本人とのコミュニケーション手段として、非常に有効
 - その効果が正しく出るような対象者及び環境設計が効果を実感するために重要
 - 2.業務効率化が図れるか
 - 利用者本人とのコミュニケーションが円滑にできることによる「業務効率化」を追求することが重要
 - 導入におけるオペレーションの負荷がかからないような設計が必要
 - 3.PHR データの取得・連携ができるか
 - 薬やケアプランに記載のスケジュール配信を行い、利用者からリアクションを得ている。これを PHR のとして連携することは可能
 - 専門職の勧めで導入促進できるか
 - 可能である
 - 但し、有償化にも耐えうるよう、対象者の選定・環境設計・導入オペレーションの設計の推敲が重要

- 2.課題と改善策、今後への期待
 - これまで、解決が難しかった利用者本人とのコミュニケーション手段を確立できたことが最大の価値であり、それを最大限に活かした「ケアの充実化」と「業務効率化」をいかに実現するかが最重要事項となる
 - そのための対象者選定、ユースケースづくり、環境整備、オペレーション改善を進める必要がある
 - それらを十分に実現することで、医療・介護現場において、ケアの充実、業務効率化に欠かせない製品になる可能性が示唆された